

---

# 煙草

almondsax

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

煙草

### 【Nコード】

N2259BA

### 【作者名】

almondsax

### 【あらすじ】

数年ぶりにあった親友、赤間と木田の物語。

「アキレスと亀ってしってるか？」

いきなり、赤間卓也が言った。また難しい話をしようとしている、と木田紀夫は思った。どう考えても、5年ぶりにあった親友と交わす会話ではない、と。

「映画か？」

木田は面倒くさそうにそう答えたが、間髪いれずに赤間は言葉を返す。

「違う、パラドックスの一種だ。例えば自分から10m離れたところに亀がいて、その亀がいる場所に追いつこうとしたら追いついたときには亀は既に少しばかり先へ進んでいる。それを繰り返すと理論上は亀に追いつけないことになるんだ」

「とんだ屁理屈だな」

「だろう？」

そこで会話が途切れた。木田は、赤間が自分になにを伝えようとしていたのかさっぱり理解できなかった。ただ共感を得たかっただけなのかな、と思うことにした。

しばらくして、赤間が沈黙を破ってしゃべりだす。

「俺さ、1冊でいいから売れる小説書きたいと思ってたけど」

普段とは違った赤間の様子に木田は戸惑いつつ言った。

「なんだ、お前らしくないな」

「月収が悪いときじゃ、1万とかだ。やっぱり厳しい世界だよ」といって赤間はマルボロに火をつけた。

「その煙草をやめれば、多少は生活が楽になるんじゃないのか？」

「それを言ったらお仕舞いだ」

木田のセリフにそう答える赤間を見て木田は、心配するほどじゃないかもなおもいつつ、アドバイスをすることに決めた。

「なあ、赤間。お前さ、小説1冊じゃあダメだろ。それじゃあアレスと亀の理論でいつまでたっても小説1冊にはたどり着けない。どうせ目標をもつなら、世界的ベストセラー作家とかにしとけ。そうじゃなきゃ、いつまでたっても、小説1冊すら売れねえよ」

そう言った木田の姿を見て、赤間はひそかにいい友達を持ったな、と思った。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2259ba/>

---

煙草

2012年1月5日19時48分発行